選挙は政治家を強く優しくする機会

〈3面からの続き〉

―柿本議員、梶原議員は、今春に実施される統一地方選挙にチャレンジされると伺いました。2期目挑戦にあたっての決意をお聞かせください。

柿　本　2期目の選挙が一番厳しいと言われますが、それは1期4年の活動に対する、初めての通知表、評価となるからだと思います。今日まで、日々街頭に立ち、地域の会合に顔を出すなど、地域の方々、有権者と対話し、向き合う機会をできる限り持つようにしています。引き続き、困っている地域の方々と行政などとの橋渡し役となりたいと思います。

また、広島県議会では、ローカル線や高度医療・人材育成基本構想に基づいた新病院建設の課題など、ＪＲ西労組組合員の関心が高い話題もあります。前広に情報収集するとともに、これら諸課題について議会でしっかりと議論し、組合員の方々が不安を抱くことのないよう力を尽くしたいと思います。

梶　原　会社員、ＪＲ西日本の社員を17年間経験したことを踏まえ、働く者の立場で、ふるさと京都、山科のために尽力したいとの決意で府議会議員を務めています。鉄道魂を忘れることなく、初心忘れず、何事にも真剣に、がむしゃらに頑張っていきたいと思っています。

政策についても、静かな有事と言われる少子高齢化と人口減少は待ったなしの課題ですし、年金も守っていきたいし、年金を守るためにも、それを支える世代のサポート、とりわけ子育て環境の改善に今後取り組んでいきたいと考えています。感謝の気持ちを忘れることなく、日本の未来に向かって、「出発進行」していきたいと思います。

―お二人へのエールをお願いします。

三日月　最近、二人の頑張りを周りの議員から聞くことが多くなったんです。ＪＲ西日本出身の先輩として、嬉しく感じています。二人ともすごく若くて元気だし、それでいて、いろんな地道な活動をずっと積み重ね、政策的な提案も行うなど、着実に実績を上げられていることを、ぜひ、皆さんにしっかりお伝えする機会だと思います。働く人、鉄道員の代表でもあるので頑張っていただきたいと思います。

僕は国会で4回、知事で3回の計7回、ＪＲ西労組の皆さんにお支えいただきながら選挙をやってきましたが、最近感じるのは、選挙は、政治家を強く、優しくする機会だということです。だから、選挙で一皮むけるように、なんかちょっと柿本、梶原変わったな、となるといいなと思いますね。そして、一人一人を大事にされたらいいと思います。たくさんヒトを集めてほしい、たくさん票がほしい、と思いがちですが、やはり一人に対して、あなたに対して私はこう思う、ということが言えるような、そんな戦い方をするといいんじゃないかと思います。

上　村　30代で政治の世界に飛び込む決意をされて、失礼ながら、最初は大勢の前で話をするのは得意ではなさそうな様子でしたが、ここ最近のお二人は、政治活動に対する自信が表れ、堂々と話をされているように感じます。

先日の参議院選挙の際、三上えり候補（現参議院議員）の街宣車で柿本さんが応援演説をしている様子を見ていましたが、彼の演説に足を止める方もいらっしゃり、とても感心しました。

梶原さんも、先般の京都府知事選の際、山科での西脇知事の演説会に、会場に入りきれないほどの彼の支援者が駆けつけていました。それだけ、普段の活動に対する評価があるんだなと感心しましたし、知事に対しても、インパクトのある出来事だったんでしょう。このことがきっかけで、西脇知事には昨年の宮津での本部大会にも来てくださいましたし、昨年末には京都府庁で意見交換する場を設けていただきました。

引き続き、驕らず謙虚に頑張っていただきたいと思います。

―最後に、組合員の皆さんに新年のメッセージをお願いします。

三日月　安全が第1ですし、0番地です。そして、安全を守るために、健康であってほしいと思います。一方で、自分自身の健康、判断能力も必要ですが、職場や会社の健康、不安なことが言える、相談ができることも重要ですし、住んでいる地域や社会の健康も、安全を守るために必要なことだと思いますので、是非そういう視点に立って考えてほしいと思います。労働組合はそれを繋ぐ立場であり、柿本議員、梶原議員を介して、議会や行政と繋ぐ役割が求められます。また、もちろん信号、時刻表、ダイヤを守ることは大事ですが、是非、ルールを作る人になって欲しいと思います。そういうことにチャレンジしながら、夢を持って頑張っていきましょう。「ガッツ!!」

柿　本　ＪＲや鉄道の歴史を振り返ると、良い時と悪い時を繰り返してきました。今回のコロナ禍はこれまでで一番先行きが見えず、これまで当たり前だったことが当たり前でなくなった大きな局面であったと思っています。

ただ、止まない雨はないという言葉もありますし、苦しい時にこそ、お互い寄り添って解決することが労働組合の原点だと思っています。苦境をどう乗り越えるか、知恵を互いに出し合って、与えられるのでなく、自ら進めていくことが重要だと思いながら取り組んでいただきたいと思います。

梶　原　公共交通のピンチであり、先輩方が築き上げてこられた鉄道の存続が難しくなっている中、日々、安全最優先に取り組んでいる組合員の皆様には、心から敬意を表したいと思います。長トンネルに入っていますが、出口は必ずあります。まずはそこに向けて取り組んでいただきたいと思います。

鉄道は街づくりの要です。そして、鉄道は人を運ぶだけではなく、人の心や笑顔を運ぶものでもあり、組合員皆様のお仕事は本当に尊いものだと思います。私も列車に乗る際には、鉄道魂を忘れないよう、先頭車両か最後部車両に乗るように心掛けています。

引き続き、公共交通に関わる事案があれば、アンテナを高くして現場の声を踏まえた政策提言を行っていきたいと思います。

―上村委員長、座談会を終えるにあたって一言と、組合員へのメッセージをお願いします。

上　村　今回は、地方政治がよりいっそう身近に感じる企画になったのではないでしょうか。本当に私たちの声をしっかりと受け止め、地方政治に活かしていただいていることも実感しました。私が委員長になってからの3年半は、組合員の深い理解を頂きながら、苦渋の選択の連続でした。

一方、ようやく、この間の頑張ってきた成果が出始め、今年度の上期決算は、額は小さいながら3年ぶりに黒字転換を果たすことが出来ました。今年度は、失いかけている自信、誇り、未来に自信を持てる反転攻勢の年にしたいと思います。

3月のダイヤ改正では、うめきた新駅ができ、特急はるかやくろしおが大阪駅を経由するなど、大阪駅が劇的に変わります。奈良線複線化も完成します。北陸新幹線敦賀延伸まであと1年、広島駅の新駅ビル完成も間近に控えています。2025年の大阪万博に向けた、アクセス改善工事も始まります。こういった明るい話題も出始めていますので、これまで頑張ってきてよかったと思えるような年にしようではありませんか。8波、9波があっても、構造改革で筋肉質な経営体制にもなってきていますので、一喜一憂せず、団結して前を向いて進んでまいりましょう！

三日月　コロナ禍を見ていると、山陽本線の瀬野～八本松駅間を乗務していた時を思い出します。1000分の25パーミルもある急こう配のため、下りでは抑速ブレーキ、上り坂にはホキを使っていました。だから、上っている時も下っている時も支えるものがとても大事ということです。ＪＲ西労組のいっそうの団結を期待してやみません。

一喜一憂せず団結して前進を

司会：石田原潔
（組織・政治・福祉対策部長）
書記：田中佑佳
（教育・情宣・国際部長）
２０２２年11月18日座談会

ロマンは実を結ぶ

No.310

中バス地本 山口分会

受け継がれる意思と公共交通の必要性

中バス地本・山口分会は、組合員50名で構成されており、先輩方が築いてこられた意思を引き継いできた若手を中心に活動しています。

山口分会がある中国ジェイアールバス山口支店は、山口県の西の京といわれる山口市に拠点をおき、すぐ近くには、白狐で有名な湯田温泉街が広がり、西から下関、美祢、長門、萩、徳山、岩国と様々な歴史あふれる観光地に恵まれた緑豊かな場所で、路線バス・高速バス・貸切バスを運行しています。今回は、路線バスに焦点をあててみたいと思います。

子供から高齢者まで誰もが利用できる身近なサービスで、自家用車などの移動手段を持たない方や高齢化社会を迎え免許証の返納などで運転しなくなる高齢者の増加により、公共交通の必要性は高まっています。

行政からの補助もありバス停への到着予定時刻の確認や最寄りのバス停を探すことが出来るバスロケーションシステム（バスロケ）や、バスの運行情報が表示されるデジタルサイネージ（電子看板）、又、約2年前からはＪＲ西日本が発行する「ＩＣＯＣＡ」の導入も始まり、利便性向上に繋がっています。

そして、山口分会の組合員も、様々なプログラムで公共交通について知ることのできる「公共交通ふれあいフェスタ」や、バス運転士体験会＆就業説明会へ参加し、利用促進に取り組んでいます。

山口分会では、コロナ禍の中、入社された社員の歓迎会や懇親会も自粛を余儀なくされましたが、そんな中でも、組合員一人ひとりの意見をしっかり聞き、世話役活動に努めてきました。

中々、新型コロナウイルスの終息は見えませんが、徐々にお客様のご利用も回復しつつあります。

山口分会は、中バス地本友景委員長の出身分会でもあり、組合員一致団結してこの難局を乗り越えて参ります。

〈中バス地本発〉

日々活躍する路線バス